

## 平成24年度第2回山内図書館利用者フォーラム 会議録

1. 日 時 平成24年12月13日(木) 14:00～16:00
2. 場 所 山内図書館集会室
3. 出席者 利用者フォーラムメンバー  
千葉委員(代表)、貞廣委員(副代表)、管野委員、片瀬委員、大西委員、  
立石(正)委員、岡嶋委員、立石(朝)委員、下田委員

### 事務局

内田グループ統括、柴田課長、荻野主任(有隣堂本部)  
小島課長、嘉藤主任(三洋装備)  
浜田館長、能川副館長、古川主任、釜田主任(山内図書館)

## 4. 案 件

- (1) 山内図書館の平成23年度評価について
- (2) その他

## 5. 概 要

### (1) 山内図書館の平成23年度評価について(浜田館長説明)

- ① 平成23年度指定管理者セルフモニタリング評価書の説明および指定管理者  
選定評価委員会の経過報告

### ② 質疑応答

- Q. 評価委員の一人から「民間ノウハウを活かした新しい取り組みが不十分」という厳しい意見が出たということだが、どういうバックグラウンドを持つ委員なのか。図書館の基本的な機能を理解している人なのか。
- A. 大学(図書館経営学)の先生。図書館の専門家。比較対象とされているのが千代田区立図書館などで、山内図書館は横浜市立図書館の一地域館だが、中央図書館並みの非常に高いレベルのものを求められている。
- Q. 評価委員が求める「新しい取り組み」とは、予約サービスの改善など図書館の基幹的サービスの向上ではなく、新規開拓を目的とした自主事業の開催などを指すのか。
- A. ただ単に図書館の基幹サービスができていればよいのではなく、例えば佐賀県武雄市の事例のような全国をあっと言わせるような展開を求められているのだと思う。山内図書館内でも、以前カフェとは言えないまでも飲食スペースをつくる提案をしたが、許可が下りなかった。山内の場合は既存の施設を使っただけの運営のため、施設面で改良できることには限りがある。また、

評価委員は横浜市に対しても、指定管理者にもっと自由に事業を実施させるようにと意見を出している。

Q. 試行している有料宅配サービスの利用状況は？

A. あまり利用は伸びていない。作業的には手間のかかるサービスでもある。しかしながら、固定の利用者はいるため引き続き実施していく。

Q. 22年度と比べて23年度のイベント回数が増えているが、どういうものが増えているのか？

A. 定例おはなし会以外の読み聞かせ事業（おはなしごっこ012、夏のおはなし祭り）、企画展示を毎月実施、連携先に出向いて実施する事業などで回数が増えている。

### ③ メンバーからの意見

- ・NPOと共催している自主企画「おはなしごっこ012」が好評なことから、乳幼児と保護者を対象とした取り組みの需要を感じる。保護者向け事業の実施の間や、親が本を選ぶ時間の託児・保育サービスを実施してはどうか。
- ・テーマ展示の視点に書店ならではのアイデアを取り込めないか。
- ・まじめな文学講座や固い企画が多く、マンガやライトノベルなど軽いテーマの企画がない。「民間だから出来ること」というのは、もっと商売っ気のあるおもしろい企画という意味もあるのではないか。
- ・製本、装丁、内容もすべてオリジナルで本をつくるコンテストはどうか。
- ・ホームページに投稿機能をつけて、図書館で紹介した本に利用者が感想を書き込めるようにしたらどうか。（フェイスブックなど）
- ・メールマガジン「丘のたより」で司書が紹介している本がユニークでおもしろい。新聞や広告には載っていない本が選ばれている。メルマガだけに載せているのはもったいないので、SNSなどで広く紹介していくのはどうか。
- ・35周年記念事業の「読書クロスワード」がよかった。本気で取り組まないで解けない難易度だった。
- ・PTA主催の地域のお祭りなどで、図書館のPRをしてはどうか。
- ・読書の履歴（記録）が残せるサービスがあるとよい。
- ・電子書籍の利用サービスを取り入れるのはどうか。（館内にリーダーを置きEブックライブラリーとして閲覧できるサービス等）

### (2) その他

① 第1回利用者フォーラム会議録の確認・内容の了承

② 事務局より

- ・25年度も利用者フォーラム出席の継続をお願いしたい。
- ・24年度いっぱいでの浜田館長の退任および後任のお知らせ。古川より挨拶。

6. 配布資料 会議次第、平成23年度指定管理者セルフモニタリング評価書、平成24年度第1回山内図書館利用者フォーラム会議録

以上